

令和2年12月28日発行
ISSN 0918-9173

福岡県保健環境研究所年報

第47号

令和元年度

*Annual Report of the Fukuoka Institute
of Health and Environmental Sciences
No.47 2019*



福岡県保健環境研究所

はじめに

令和元(平成 31)年度は、平成から令和へと元号が替わり、時代の節目となるはずの一年でしたが、8 月には福岡県を含む九州北部地方としては 3 年連続となる大雨特別警報が発令され、令和 2 年 2 月には福岡県でも新型コロナウイルス感染症の患者が確認されるなど、災難の多い一年でした。新型コロナ感染症に関しては未だに収束の兆しがみられず、長期化が懸念されます。

さて、当所における令和元年度の主な出来事や取り組みについて御紹介します。

保健分野では、新型コロナウイルス感染症に関する検査体制の整備を行いました。また、人獣共通感染症発生状況等調査として平成 29～30 年度のカブノサイトファーガ・カニモルサス感染症に引き続き、コリネバクテリウム・ウルセランス感染症のペット保有状況調査を行いました。医薬品関連では、県内で輸入ダイエット製品が原因と疑われる健康被害事例が発生したため、症状を引き起こす医薬品成分の特定を行いました。さらに、本庁及び保健福祉環境事務所の職員を対象とした保健情報の活用研修を実施し、医療費の適正化に向けた保健情報データ活用の推進を図りました。

環境分野では、8 月に福岡県気候変動適応センターが当所に設置されました。冒頭でも述べたとおり、近年、地球温暖化の影響と思われる気象災害が頻発しています。今後、気候変動適応策に関する情報発信を行っていきます。国際環境協力関連では、中国大気環境改善のための都市間連携事業として、平成 30 年度に引き続き、福岡県が進めているモデル事業の評価のため、職員を江蘇省に派遣しました。また、インド・デリー準州における大気汚染改善事業のニーズ調査のため、職員をデリー準州に派遣しました。さらに、日韓海峽沿岸県市道環境技術交流事業として、「地下水の成分等調査と日韓比較」のとりまとめを行いました。

所内の取り組みとしては、大規模地震発生時の対応をテーマに「若手ミーティング」を実施しました。大雨、地震等の気象災害に係る影響調査は、今後、当所の重要な役割となっていくものと考えております。

保健環境研究所は、県民のみなさまの生活に密着した課題を解決するための研究所です。当所を取り巻く環境には厳しいものがありますが、県民のみなさまの安全・安心のため、所員一同全力を尽くす所存です。今後とも、御指導、御鞭撻をよろしくお願いいたします。

令和 2 年 12 月

福岡県保健環境研究所長 香月 進